

# 「英語授業」についての一考察

— 英語による英語授業、電子黒板による英語読解授業、大講義室における英語文法授業、英検、図書館における英語多聴多読図書に関連して —

小林 貢

## A Study on English Classes concerning to MCC of NIT: English Class in English, English Reading with Electronic Blackboard, English Grammar in the Auditorium, STEP and Extensive English Reading in School Library

Mitsugu Kobayashi

(令和4年2月1日受理)

It should be taken into consideration that English classes concerning to Learner Autonomy and MCC (MODEL CORE CURRICULUM) of NIT play important roles for human resource development of NIT, Akita College.

The purpose of this thesis is to suggest an approach to improve some spontaneous English abilities for our students by applying the teaching method of English Class in English, English reading with electronic blackboard, English Grammar at large classroom, STEP and extensive English reading in school library .

We have been making many attempts to establish students' voluntary English learning and keep them updated the world-wide point of view for engineering design. If they keep studying their specialties autonomously and trying to communicate with foreigners in English, they can contribute to the world as international engineers.

Keywords: English class in English, MCC (MODEL CORE CURRICULUM) of NIT, English reading with electronic blackboard, English grammar in the auditorium, STEP, Extensive English reading in school library

### 1. はじめに

「本校の英語教育について」の特色ある取組として、以下の3点を挙げる。

1. 本校の英語教育においては、英語学習に対するモチベーションを高める手段の一つとして英語に関する資格試験の受験を奨励している。その経過として本校は平成11年度から平成19年度まで、9年連続して実用英語技能検定奨励賞に、平成20年度には優秀団体賞に、平成21年度には優良団体賞に、平成22年度及び平成23年度には奨励賞に、平成25年度においては優良団体賞に、平成26年度は優秀団体賞に選考された。また、平成28年度実用英語技能検定において優秀団体賞(受験率伸長差部門)を受賞した。そして、平成29年度から令和元年度に実用英語技能検定奨励賞を受賞した。令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症に関連した対

応として学校申込を中止したため、実用英語技能検定の受賞はなかったが、個人受験による令和2年度英検合格者は、準2級102名、2級2名の合計104名であった。

2. 本校は、TOEIC Test に対して、積極的に授業において取り組んでおり、その成果は、TOEIC スコアにも現れている。過去における TOEIC スコアのついては以下の通りである。平成18年度において専攻科の評価指標である大学院における TOEIC 平均スコア479点を超えた専攻科生は7名おり、最高点は635点であった。平成19年度の大学院における TOEIC 平均スコアの484点を超えた専攻科生は5名おり、最高点は660点であった。平成20年度の大学院における TOEIC 平均スコアの491点を超えた専攻科生は6名おり、最高点は745点であった。平成21年度の大学院における TOEIC 平均スコアの494点を超えた専攻科生は7名おり、最高点は

855 点であった。平成 22 年度の大学院における TOEIC 平均スコアの 507 点を超えた専攻科生は 7 名おり、最高点は 720 点であった。平成 23 年度においては専攻科の評価指標が大学院 4 年の平均スコアに変更となり、平均スコア 593 点を超えた専攻科生は 1 名で、最高点は 620 点であった。平成 24 年度の大学院 4 年平均スコア 614 点を超えた専攻科生は 5 名で、最高点は 700 点であった。平成 25 年度の大学院 4 年平均スコア 594 点を超えた専攻科生は 2 名で、最高点は 615 点であった。平成 26 年度の大学院 4 年平均スコア 605 点を超えた専攻科生は 0 名で、最高点は 570 点であった。平成 27 年度の大学院 4 年平均スコア 587 点を超えた専攻科生は 1 名で、最高点は 640 点であった。平成 28 年度の大学院 4 年平均スコア 622 点を超えた専攻科生は 2 名で、最高点は 640 点であったが、同年度において TOEIC スコアによる学生表彰は廃止された。

平成 29 年度における、本科 4 年の TOEIC 平均スコア 443 点であり、専攻科 1 年の TOEIC 平均スコアは 423 点であった。本校は平成 30 年度“KOSEN4.0 イニシアティブ”に採択された事業における成果指標として「本科 4 年の TOEIC 平均スコアを平成 29 年度の 443 点から毎年 10 点ずつアップし、令和 3 年度には 500 点とする」という目標を掲げて英語教育に取り組んでおり、本科 4 年生の TOEIC 平均スコアは平成 30 年度が 446 点、令和元年度が 457 点、令和 2 年度が 478 点であった。そして、本校の専攻科 1 年の TOEIC 平均スコアは、平成 30 年度は 493.6 点、令和元年度は 516.9 点、令和 2 年度は、550.3 点でした。

3. 平成 21 年度高専改革推進経費採択事業（「国際性の向上に関する改革推進事業」予算配分は 2 年間で 1,940 万円）として、本校の人文科学系（英語）の「国際的な情報発信のための e-learning による人材養成プログラム」が、高専機構から選定された。プログラムの概要は、「e-learning による英語学習に加えて外国人による専門分野に関する講演会により、TOEIC に十分対応できる国際的に活躍できる人材の養成を図る。そして、情報発信の推進のための国際教養大学（以下、AIU）Dr. Kirby Record 先生によるライティングのプログラム『情報発信のための Lesson』の演習を行うことで、学生が国際学会等で専門に関する発表をできるための英語力の素地を養成する。」であった。プロジェクトの成果については、平成 23 年度に高専改革推進経費事例発表会（於：鹿児島大学）において発表し、『文部科

学時報 3 月号』（2012 年 3 月号）に掲載された。

AIU との連携については、平成 26 年度においても継続しており、6 月 23 日に「グローバル人材養成講演会」として AIU Dr. Darren J Ashmore 先生による英語による講演会「人形芝居」を実施した。そして、11 月 19 日には 5 年物質工学科生物コースの「タンパク質工学」において授業担当教員と AIU Dr. Andrew Crofts 先生による DNA の構造と機能についての英語授業を実施した。

平成 27 年度においては、7 月 22 日に「グローバル人材養成講演会」として AIU Dr. Patrick Dougherty 先生による英語による講演会「Describing Japanese Customs in English」を実施した。そして、『グローバル人材養成授業：英語による専門授業「タンパク質工学」』については、平成 27 年度の本科 5 年物質工学科生物コース学生対象の専門授業である「タンパク質工学」において、平成 27 年 11 月 16 日 7, 8 校時 301 教室にて実施した。AIU との連携は、“KOSEN4.0 イニシアティブ”に採択された事業における English Village として継続しており、平成 30 年度および令和元年度においても 40 名を上限として、本科 2 年の志願をした学生が AIU における授業を受けて、英語コミュニケーションの向上を試みている。令和 2 年度においては新型コロナウイルス感染症により中止となった。これらに加えて、英語力向上のために本科 3 年生をシンガポール語学研修に派遣しており（令和 2 年度は中止）、それに関連して、「英語による英語授業」を本科 1 年生および専攻科 1 年生対象として、本校日本人教員が令和 2 年度まで実施した。令和 2 年度後期より、外国人教員 2 名が英語教員として採用されており、「英語による英語授業」を引き続き実施している。令和 3 年度には外国人教員 2 名による遠隔配信教室からの「工学概論英語授業」が、本科 1 年生を対象に大講義室において、サポート教員 1 名を配置することで四則演算について実施された。また、例年、フランス・フィンランドの大学からの学生を受け入れることに加えて、専攻科学生をフランスへの短期留学に派遣しているが、令和 2 年度および 3 年度は中止となった。また、英語が得意ではない学生対象に本科 1 年英語補習を平成 28 年度から実施を継続している。それに加えて、令和元年度後期からは、本科 2 年英語補習および本科 3 年英語補習についても実施を継続して行っている。

上記に加えて、教育能力の向上のために種々の資格（CompTIA CTT+、シニア教育士（工学・技術）、

TKT Module1 Band 4、英語教授法認定資格 CEFR B2 Cambridge English Teacher, Teaching Speaking 等) を取得した教員による、「秋田高専アウトディングラーニングFD研修会」(平成27年3月19日(参加23名)実施)等のFDを定期的の実施した。

## 2. 日本人教員による「英語による英語授業」総括

平成26年度より令和2年度まで小職が実施した「英語による英語授業」には、文章の意味を確認する時には、コミュニケーションがうまくいかなる問題があった。この問題を解決するために、平成27年度より令和2年度に実施した「英語による英語授業」については、筆者は、本科1年通年英語I(平成29年度より英語IA)において、週1回2時間リスニングを担当し、教科書:「スヌーピーと学ぶライティングとリスニング LIFE WITH SNOOPY」南雲堂、単語集:「TOEIC テストにでる順英単語」中経出版(平成30年度より、「Data Base 4500 5th Edition」桐原書店)を使用した。「LIFE WITH SNOOPY」は、GRAMMAR FOR WRITING, SENTENCES FOR WRITING, ENJOY SNOOPY, GRAMMAR CHECK, WRITING(1)(2), TIPS FOR LISTENING, LISTENING(1)(2), SPEAKING の項目から構成され、文法、作文、リスニング、スピーキングにおいて演習形式で「英語による英語授業」を実施するには特に問題がなく実施できる。ただ、ENJOY SNOOPY における漫画の意味を確認する際においては、コミュニケーションがうまくいかないこともあったので、その後においては、質問をすることでその問題を解決し、「英語による英語授業」の実施を継続した。因みに、平成27年度における1M英検準2級合格学生は42名中3名、1C英検準2級合格学生は42名中5名であった。平成28年度における1M英検準2級合格学生は43名中5名、1C英検準2級合格学生は40名中3名であった。また、平成29年度の第3回英検までに英検準2級を合格している学生は、1組は42名中3名、2組は43名中5名、3組は42名中7名、4組は42名中5名である。平成30年度の第3回英検までに英検準2級を合格している学生は、1組は42名中2名、2組は41名中4名、4組は42名中2名である。令和元年度の第3回英検までに英検準2級を合格している学生は、1組は43名中2名、2組は42名中1名、3組は42名中1名、4組は43名中1名である。令和2年度の第3回英検までに英検準2級を合格している

学生は、1組は43名中3名、2組は42名中2名、3組は42名中3名、4組は42名中2名である。

「英語による英語授業」の特色は、英語のみによる授業であることに加えて、教科書のUNITにおけるSpeakingの設問を参考に、内容や表現を変更した設問を出題するSpeaking Testを導入することで学生の英語四技能向上へのモチベーションを高めたことが挙げられる。令和元年度および令和2年度のSpeaking Testの具体的な内容について取り上げる。

令和元年度において、前期中間試験前に実施したSpeaking Testの設問は”What club do you belong to in this college?”で、例えば”I am a pitcher on the baseball team of this college.”と学生が答えた場合は、”When did you begin to play baseball?”などと会話を続けた。前期期末試験前に実施したSpeaking Testの設問は”Where do you like to live, in an city area or a country area?”で、例えば”I would like to live in a country area.”と学生が答えた場合は、”Why do you want to live there?”などと会話を続けた。後期中間試験前に実施したSpeaking Testの設問は”Can you sleep well?”で、例えば”Yes. I can.”と学生が答えた場合は、”What kind of dream do you dream?”などと会話を続けた。後期期末試験前に実施したSpeaking Testの設問は”Which do you like better, dogs or cats?”で、例えば”I like dogs.”と学生が答えた場合は、”Why do you like dogs?”などと会話を続けた。

令和2年度において、前期中間試験前に実施したSpeaking Testの設問は”Did you cook dinner?”で、例えば”Yes. I cooked spaghetti well.”と学生が答えた場合は、”What kind of spaghetti do you like to cook?”などと会話を続けた。前期期末試験前に実施したSpeaking Testの設問は”Is there someone you have special interest now?”で、例えば”I have special interest about you.”と学生が答えた場合は、”Why are you interested in me?”などと会話を続けた。後期中間試験前に実施したSpeaking Testの設問は”What kind of movie do you like?”で、例えば”I like to watch 'Demon Slayer'.”と学生が答えた場合は、”Who is your favorite character?”などと会話を続けた。後期期末試験前に実施したSpeaking Testの設問は”Where do you want to go if you could take a long vacation?”で、例えば”I want to go to America.”と学生が答えた場合は、”Why do you want to go to America?”などと会話を続けた。アンケートの回答

からも学生たちは英会話を楽しんでおり、学生の英語四技能向上へのモチベーションを高めたと考えられる。

専攻科 1 年後期 応用英語Ⅱにおいて平成 26 年度から令和 2 年度まで小職が実施した「英語による英語授業」には、ルーブリック評価として、到達目標項目 1 としては、「国際的に通用するプレゼンテーション能力を修得するための英語によるコミュニケーションに必要な基本的能力を身につける。」ことを目標とし、到達目標 項目 2 としては、「自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200 語程度の簡単な文章を書くことができることに加えて、自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、前もって準備をすれば毎分 120 語程度の速度で約 2 分間の十分な口頭説明ができる。」ことを前提としたプレゼンテーションを実施している。平成 27 年度および 28 年度についても、専攻科生 1 年生が対象であるため、特に大きな問題はなく「英語による英語授業」を実施した。

具体的には、プレゼンテーションの準備として、学生全員には、毎分 120 語程度の速度で約 2 分間の自己紹介を日本語および英語で準備してもらい、発表してもらい、それから、研究内容について毎分 120 語程度の速度で約 2 分間のプレゼンテーションをパワーポイントを含めて日本語および英語で準備してもらい、発表してもらい、つまり、この授業は特別研究発表会の英語プレゼンテーションの準備も兼ねており、英語プレゼンテーションについては、研究に関する Q & A を行うことで、「英語による英語授業」の英語コミュニケーションは、国際学会における Q & A およびスピーキング対策を含めて機能していると考えられる。

### 3. 大講義室における英語ⅡB (英文法) 授業

大講義室において、令和 3 年度は、2 年機械系 (2M43 名) および環境都市系 (2B46 名) の合計 89 名を対象に、教科書「be English Expression I /II Advanced (いいずな書店), be English Expression I /II Advanced Workbook (いいずな書店)」を使用した合同授業を実施している。

英語ⅡB の目標・到達目標は下記の 4 点である。

1. 中学校で既習の文法や構文に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や構文を習得して適切に運用できる。
2. 関係代名詞、関係副詞、比較、仮定法の用法に

ついて理解することができる。

3. 接続詞、接続副詞、複文構造、知覚動詞の表現について理解することができる。
4. 許可や提案を表す表現、存在や変化を表す表現、使役表現、日本語とは違う英語の表現の用法について理解することができる。

大人数の学生を対象として、以下のルーブリック評価項目 1～3 をクリアさせるために、授業においては毎回、予習レポートを提出させ、小テストで理解を確認し、定期試験前にはワークブックの確認を行うことで上記の目標をクリアしている。また、英語ⅡB 前期末再試験合格学生は 2M 2 名および 2B 1 名であった。ちなみに、2021 年度第 1 回英検における 2M の準 2 級受験者は 2 名で、二次試験合格者は 1 名である。2021 年度第 1 回英検における 2B の準 2 級受験者は 1 名で一次試験合格者は 0 名である。2021 年度第 2 回英検における 2M の 2 級受験者は 1 名で、一次試験合格者は 0 名である。2021 年度第 2 回英検における 2B の 2 級受験者は 1 名で一次試験合格者は 0 名である。

### 4. 電子黒板を使用した英語ⅠA (読解) 授業

第一ゼミ室において、令和 3 年度前期は、1 年 2 組 (37 名) および 1 年 4 組 (37 名) の合計 74 名を対象に月曜日 5, 6 時限に授業を行った。また、同様に、1 年 1 組 (38 名で 1 名休学) および 1 年 3 組 (37 名) の合計 74 名を対象に木曜日 5, 6 時限に英語ⅠA (読解) 授業を行った。教科書は「CROWN English Communication I New Edition (三省堂)」で、英語ⅠA の目標・到達目標は下記の 4 点である。

1. 英語の基本的なイントネーションやアクセントを聞き取り、理解し、音読することができる。
2. 中学校で既習の語彙を定着させるとともに、2600 語程度の語彙を低学年において新たに習得できる。
3. 辞書や基本的な英文法の知識に基づいて、英文を自分の力で理解することができる。
4. 簡単な状況について英語で話すことができる。
5. 簡単な状況について英語で書くことができる。

大人数の学生を対象として、以下のルーブリック評価項目 1～3 をクリアさせるために、ゴールデンウィークに予習レポートを提出させた。

1. 英語の基本的なイントネーションやアクセントを正確に聞き取り、理解し、音読することができる。
2. 中学校で既習の語彙を定着させるとともに、2600 語程度の語彙を低学年において新たに習得できる。

3. 辞書や基本的な英文法の知識に基づいて、英文を自分の力で正確に理解することができる。

下記は教科書に基づく、ゴールデンウィーク期間の英語 I A 課題の内容である。

1) 8 頁～9 頁の英文を書く。日本語訳を書く。Q-5～Q-7 に英語で答える。

2) 10 頁の Comprehension の英文を書く。設問に答える。日本語訳を書く。

3) 13 頁の Exercises に答える。①および②は、英文および日本語訳を書く。

表紙には「英語 I A 課題、組、学籍番号、出席番号、氏名」を書いてください。

また、表紙には、上記の 1)～3)の項目ごとに到達度 (A,B,C) を記入してください。

例) 「 1) A 2) B 3) C 」 → 基準は以下の通りです。

1) 8 頁～9 頁の英文を書き、日本語訳を書き、Q-5～Q-7 に英語で答えた → A

8 頁～9 頁の英文を書いたが、日本語訳や Q-5～Q-7 が一部わからない → B

8 頁～9 頁の英文を書いていない。日本語訳や Q-5～Q-7 をやっていない → C

2) 10 頁の Comprehension の英文を書き、設問に答え、日本語訳を書いた → A

10 頁の英文を書いたが、設問や日本語訳が一部わからない → B

10 頁の英文を書いていない。設問や日本語訳をやっていない → C

3) 13 頁の Exercises に答え、①および②の英文および日本語訳を書いた → A

13 頁の Exercises、①および②の英文および日本語訳を一部やっていない → B

13 頁の Exercises、①および②の英文および日本語訳をやっていない → C

レポート用紙 A4 を使用してください。提出日はゴールデンウィーク後の最初の授業。提出後の返却はしません。字が確実に読める濃度であれば、A4 サイズのコピーを提出しても構いません。(ノート等を A4 サイズでコピーしたものの提出可) 以上

全学生が課題を提出した。1 組 37 名の回答数は 1) A32, B5, C0, 2) A26, B11, C0, 3) A28, B8, C1,であった。2 組 37 名の回答数は 1) A32, B5, C0, 2) A24, B13, C0, 3) A26, B11, C0,であった。3 組 37 名の回答数は 1) A33, B4, C0, 2) A25, B11, C1, 3) A26, B10, C1,であった。4 組 37 名の回答数は 1) A35, B2, C0, 2) A32, B4, C1, 3) A30, B6, C1,であった。尚、英語

I A 前期期末再試験合格学生は 1 組 2 名および 3 組 2 名であった。ちなみに、2021 年度第 1 回英検における 1 年生の 2 級二次合格者は 4 組 1 名である。2021 年度第 1 回英検における 1 年生の準 2 級二次合格者は 2 組 2 名、4 組 1 名の合計 3 名である。2021 年度第 2 回英検における 1 組の準 2 級受験者は 1 名で、一次試験合格者は 0 名である。2 組の 2 級受験者は 1 名で一次試験合格者は 0 名である。2 組の準 2 級受験者は 2 名で、一次試験合格者は 1 名、二次試験合格者は 1 名である。3 組の準 2 級受験者は 1 名で、一次試験合格者は 1 名、二次試験合格者は 1 名である。4 組の準 2 級受験者は 0 名である。

第一ゼミ室には 65 型電子黒板 Brain Board セット (メーカー型番 : LCD-E651-T-STP) が設置されている。電子黒板用ペンソフト「PenPlus for NEC」NP-PPN-ED をインストールすることは必要であるが、写真等の教材作成をサポートでき、楽しい授業を演出することができる。また、タッチスクリーンのパソコンを使用することでパソコンに書いて入力した文字を電子黒板に映すこともできる。また、DVD ロムをパソコンに接続することで英文音声を学生に聴かせることもできる。前期においてはプロジェクターが故障していたためスクリーンに映すことはできなかったが、後期においてプロジェクターが使用できるようになった場合にはスクリーンも使用した授業を実施したい。

次に、以下は電子黒板を使用した「英語の歴史」の説明である。



上記は Norman の England 侵攻を表す。

## NORMAN CONQUEST 1066年 COW, OX, CALF → BEEF

上記は、Norman Conquestにより、イギリス固有

の英語とフランス語に影響された英語の比較である。学生は英語の歴史および英単語への理解を深めた。

## 5. 図書館における「英語多聴多読図書」の夏季休業課題としての使用

以下は、本校の令和2年度における『図書館だより第59号』の4頁に英語教員として、「英検と算盤と Hamlet」という題名で、英検受験の必要性を教養小説風に論じた筆者のエッセイである。(以下引用)

William Shakespeare の悲劇 HAMLET ACT 3, SCENE 1, LINE 55-59 において、主人公の Hamlet は、"To be, or not to be, that is the question: Whether 'tis nobler in the mind to suffer The slings and arrows of outrageous fortune, Or to take arms against a sea of troubles And by opposing end them."と独白する。Hamlet にとって"To be"とは、「乱暴な運命の矢弾を耐える精神の高貴さ」すなわちエルシノア城で王子としての失意の日々を Ophelia と過ごし、叔父からデンマーク王位を継承することであり、"not to be"とは、「多くの苦難に武器を持って向かい合うことで、それらを終わらせること」すなわち亡き父の亡霊の言葉を信じ、矜持にかけて、父の仇である叔父への復讐を果たすことである。

筆者は、ある事情により「英検1級もしくは英検準1級の資格」が急遽必要となり、CEFR B2 に該当する英検準1級を平成30年度第3回英検において取得したが、令和元年度に入り CEFR C1 に該当する英検1級を受験するかどうかについて悩んでいた。ある日、研究室にあったソロマット（上級者用算盤）の珠を弾いた瞬間に、響きと香りからプルースト現象（『失われた時を求めて』参照）が起こり、珠算1級に合格した中学1年生、春の日の記憶が鮮明に甦ったことで、"not to be"を選択し、もう一つの1級を終わらせることを決意する。

上記の理由により、筆者は、令和元年度第2回英検において英検1級を受験した。参考にできる教材は、準備時間があまりなかったため多数は紹介できませんが、英検ホームページに掲載されている英検1級過去問3回分を学習するとともに、本校の図書館にある「英検1級総合対策教本 改訂版」(旺文社)を一次試験全体対策として使用した。また、「最短合格! 英検1級 英作文問題完全制覇」(ジャパントイズム)については、Writing が Reading に及ぼす

影響についても確認できた。一次試験の結果スコアは、Reading 644/850, Listening 642/850, Writing 745/850 で、一次スコア 2031/2550 により合格となった。

次に、二次試験（試験会場：仙台）における対策としては、英検ホームページに掲載されている「英検バーチャル二次試験1級」を閲覧した。また、教本（前掲）を演習するとともに、「英検1級 面接大特訓」(J リサーチ出版)を使用した。この本の巻末にある「フラッシュカード」は解答英文が短いので覚えやすく、面接対策に役に立つので暗記をお勧めする。面接においては、スピーチのみならず、Q&A の重要性についても認識できた。二次試験の結果スコアは、Speaking 610/850 で、英検 CSE スコア 2641/3400 により合格となった。

これについては、これまでに筆者が担当した「英語による英語」授業において、一緒に英語を勉強した学生諸君に感謝の意を表するとともに、今後も尚一層の研鑽に励みたい。

今回の英検1級取得を通して再認識したことは、英語学習の積み重ねの重要性である。筆者は、一昨年度までの3年間、図書館長を拝命し、一昨年度も学生諸君のために、英語多読図書である Cambridge English Readers, Cambridge Experience Readers, Cambridge Discovery Interactive Readers を選定し、配架を行った。次頁に掲載した上記図書は、多岐にわたる内容となっているので、学生諸君が英語学習に活用することで、長期インターンシップを含めた留学、国際学会、英検、TOEIC 等に対応できる「英語4技能」(Listening, Reading, Writing, Speaking) の継続的な能力向上の助けとなることを祈念する。

(以上引用)

また、以下は、本校の令和3年度における『図書館だより第60号』の2頁に寮務主事として、「英語と歴史と Vision」という題名で、英語と歴史による Vision の必要性について論じた筆者のエッセイである。(以下引用)

英国の Stratford-upon-Avon つまり William Shakespeare の故郷にある The Shakespeare Institute に、筆者は2000年11月から2001年8月まで文部省在外研究員として派遣され家族と赴いた。その際に、1823年に出版された THE PLAYS OF WILLIAM SHAKESPEARE VOLUME I ~ VIII のような貴重な資料を日本に持ち帰ったが、その中の一つに、"Vision is the art of seeing things invisible. Jonathan Swift 1667-1745"と書かれた円形の白い文鎮があっ

た。日本語では、「ヴィジョンとは見えないものを見る術である」それでは、『ガリヴァー旅行記』(Gulliver's Travels)の著者ジョナサン・スウィフトが定義する Vision を手に入れるためには、どのような思考プロセスが必要とされているのであろうか。

19 世紀米国の詩人・外交官であったジェームズ・ラッセル・ローウェルは『書物と図書館』(Books and Libraries)の中で、「歴史とは明確にされた経験である」と述べている。「明確にされた経験」について、英国の歴史家エドワード・ギボン『ローマ帝国衰亡史』(The History of the Decline and Fall of the Roman Empire)の中で、"History, which is, indeed, little more than the register of the crimes, follies, and misfortunes of mankind."つまり、「歴史とは人類の犯罪、愚行、災難の記録にすぎない」と記している。そして、古代アテナイの歴史家であるトゥキディデスは「歴史は繰り返す」(英語では、"History repeats itself.")の言葉を残しており、『すばらしい新世界』(Brave New World)の著者オルダス・ハクスリーは「人は歴史の教訓からは多くを学ばず、またそれは歴史の教訓のうちでもっとも重要な点だ」と指摘している。それに対して、プロイセン・ドイツの鉄血宰相オットー・フォン・ビスマルクはフィードバックを付与しうる歴史の役割について「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」と述べている。

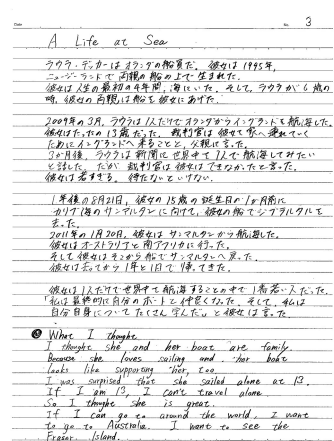
上記に加えて、筆者はある事情により「歴史」について再度学習することが必要となり、2020 年 11 月に実施された「第 39 回歴史能力検定 2 級日本史」の試験を急遽受験することとなった。「2 級日本史」の合格者は高等学校卒業程度認定試験の「日本史 B」の受験が免除になるので、高専 3 年生と同年齢の受験者達と一緒に受験した。業務で忙しかったので、山川出版社の『山川一問一答日本史 第 3 版』に目を通すことのみ集中した。試験内容は古代から現代に渡り、設問数も多かったが、筆記の問題について「木簡」「旗本」の語句や「夢窓疎石」「志賀潔」の人名を漢字で書けたことを糸口に合格した(合格率は 31%)。

それから、ノーベル賞受賞者を多数輩出しているユダヤ人は、タルムード(Talmud)つまり複数のラビたちが口伝律法を体系的に編纂した書物とそれに関する詳細な解説を日々学ぶことで(タルムードには「常に新しいことを学びなさい」との教えがある)、先祖の歴史を俯瞰的に理解しようとしている。これらを踏まえた筆者のアプローチは、通時的および共

時的に詳細な情報収集("God is in the details."「神は細部に宿る」)を「英語と歴史」を通して行い、未来に対応できる想像力つまり Vision を創造することである。

筆者は平成 29 年から令和 2 年にかけて、学生諸君のために「英語多聴多読図書」258 冊を選定し、『図書館だより』(第 56 号～第 59 号)において紹介した。学生諸君が新たに学ぶために同図書をを読むことで、Vision を育むための助けとなることを祈念して筆を擱く。(以上引用)

上記に関連して、学生が英検受験へのアプローチおよび Vision を創造するために、筆者は令和 3 年度英語 I A 受講学生および英語 II B 受講学生に「英語多聴多読図書」258 冊を夏季休業の読解課題として使用した。夏季休業終了後に課題を提出した英語 I A 受講学生は、1 組は 37 名中 37 名、2 組は 37 名中 37 名、3 組は 36 名中 36 名、4 組は 36 名中 36 名、2M は 43 名中 39 名、2B 組は 45 名中 45 名だった。以下は提出したレポートの一部と感想である。



## 6. まとめ

これまで述べてきたように、本校においては、英語による英語授業、電子黒板による英語読解授業、大講義室における英語文法授業、英検、図書館における英語多聴多読図書課題を今後も試行錯誤を重ねながらも英語能力向上を目指して、今後も実施可能な英語教育に取り組んでいく予定である。

## 参考文献

独立行政法人 国立高等専門学校機構  
『モデルコアカリキュラム (試案)』  
平成 24 年 3 月 23 日  
独立行政法人国立専門学校機構